



高宮だより

安来市立第二中学校
〒692-0037 安来市吉岡町7番地
Tel: 0854-22-2859 Fax: 0854-22-6454



令和5年度（1月15日発行：第10号）

<http://www.city.yasugi.shimane.jp/gakkou/daini-jh/>

または右のQRコードから E-mail: daini.jsc@city.yasugi.shimane.jp

新しい年となりました 本年もよろしくお願いたします

穏やかな気候のもと年末を過ごし、新たな年となった元日に緊急地震速報とともに大災害のニュースを目の当たりにすることになりました。石川県能登地方を中心に大きな地震があり、多くの方々の命が奪われました。また現在も厳しい避難生活をされている方々がおられます。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災地の復興を心よりお祈りしたいと思います。

さて、本校に話を戻しますと、生徒たちは一年の締めくくりである3学期をしっかりと過ごすことで、新たな新年度の生活につながっていきます。具体的には生徒スローガンである「**凡事徹底**」「**他者貢献**」「**三方よしの精神**」を体現できるよう生活してほしいと思います。3年生は目の前に受験を控えています。1・2年生も日頃の学校生活の中で、学習を怠ることなく授業に集中してほしいと思います。また、家庭学習を充実させ、こつこつ努力することが自分の力として積み重なっていくんだという体験をしてほしいと思っています。

また、始業式で生徒たちに話しましたが、今回のような災害時に困ってる人々に心を寄せ、何かできることはないかと考えることは、中学生として必要なことだと思います。二中は日本赤十字社に加盟しています。赤十字社のスローガンである「**気づき、考え、実行する**」ことは生徒自身が体験することで、生徒たち自身の成長につながります。どのような活動をするかはわかりませんが、内容についてはまた次号でお知らせしたいと思います。

安来市人権フェスティバル 佐藤みどりさんの講演から

12月9日は広瀬中央交流センターにて、人権フェスティバルが開催され、2、3年生は親子活動として、保護者さんも含めて30名程度の参加でした。

メインは佐藤みどりさんの講演でした。LGBTの当事者である佐藤さんのお話は、私たちが生きていく上で新たな視点に気づかせていただいたと思いました。書籍等で知っている事実と今回のような当事者からのお話を重ね合わせて、私たちはさらに理解を深め、ともにお互いを尊重して生きていくことの大切さや心地よさを感じることができました。参加した生徒たちは、小グループでの話し合いで、自分の考えを話し、共有していました。指名されてしっかりとグループで出た意見をまとめて話した生徒もいました。とても貴重な時間を過ごすことができました。

「**いろんな幸せの姿やカタチがあると考えることが大事**」、「**普通の反対ももう一つの普通**」、「**みんなが『自分らしく』生きる社会を一緒に創ろう**」、「**I Love me**」、佐藤さんが講演で私たちに伝えてくれたメッセージです。



第69回青少年読書感想文コンクール さん 最優秀賞に輝く

うれしいニュースが舞い込んできました。3年生門脇東洋さんの読書感想文が島根県審査で最優秀賞に輝きました。読書感想文の目的は「書くことによって考えを深めること」にあると思います。まさにさんさんの感想文は自分の考えが深められた作品でした。現在さんさんの作品は全国審査に進んでいます。また結果が分かり次第お伝えします。

「竹島・北方領土問題を考える」作文コンクール 今年度も受賞者多数

竹島・北方領土については、戦後からこれまで、隣国の不法占拠が続いている状況です。この問題の解決のためには、大人だけではなく、次世代を担う若者がしっかりと事実を正しく認識し、我が国の大切な領土について関心をもつことが大切です。そのうえで、自分の考えをしっかりと持って、伝えていくことが解決に向かう道であると思います。二中では、この問題について授業で考える機会をもち、考えを深めています。今回のコンクールでは4人の生徒が受賞しました。自分の考えをしっかりと伝えられた作品でした。



二中学生の活躍が光っています

■青少年読書感想文全国コンクール 島根県審査

最優秀賞 「団子の外へ」
3年 さん

■竹島・北方領土問題を考える
中学生作文コンクール
入選 3年 さん さん
さん さん

■安来市毛筆書写コンクール
銀賞 2年 さん さん
銅賞 1年 さん
3年 さん さん
佳作 1年 さん さん
2年 さん
3年 さん さん

■島根県科学作品展
入選 3年 さん



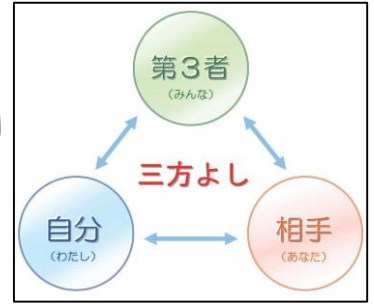
「三方よし」の精神について



今年度の二中の生徒スローガンは、

- ・凡事徹底(当たり前のことを当たり前のこととして)
- ・他者貢献(世のため人のため)
- ・「三方よし」の精神(自分よし 相手よし 周りよし)

です。



「凡事徹底」、「他者貢献」については、前校長の内田校長先生が大切にされてきたことです。私も同様に考えています。

「三方よし」の精神については、今年度から新たにスローガンに取り入れました。もともとの言葉は、江戸時代の近江商人の商売の思想から生まれたものです。もとの意味は「売り手よし、買い手よし、世間よし」です。売る人はもちろん、買い手が満足してくれて、しかも世の中のためになることが大切という考え方です。近江商人がルーツである伊藤忠商事をはじめ、多くの企業の経営理念の根幹となっています。この考え方を人の生き方として、世に広めたのが、法学博士の廣池千九郎(1866～1938)です。人が幸せになるためには、自分自身の周りの人や、人を取り巻く社会もまたよりよいものになっていく必要があるという人生の指針を説きました。廣池博士の言葉は「自分よし、相手よし、第三者よし」ですが、中学生に理解しやすい方が良く、私は生徒たちに「周りよし」として伝えていきます。そして生徒たちにとって「周り」とは、クラスや学校のみんなであり、私達を支えてくれるご家庭(もちろん先祖も含む)や地域の方々であり、誰もが学校に通えるように制度を整えてくれている自治体や国でもあります。おそらくまだまだ他にも解釈できることもあると思います。



全校集会で生徒たちに示した図

生徒たちにとって学校は、いわば子どもたちの社会と言ってよいと思います。言い換えれば、学校は子どもたちが大人になるまでに、社会を学ぶ場であると言えます。そのような場でぜひ生徒たちには、自分のことだけではなく、自分の周りにも目を向けてほしいと思っています。自分の知らないところで、たくさんの方が自分と関わっています。家族、友人、学校の教職員、地域の方々、他にも会ったことはなくても支えてくれている方はたくさんいます。

二中の生徒たちの様子は「高宮だより」でもしばしばお伝えしておりますが、校内での授業態度や部活動の様子、地域貢献など中学生として立派な行動ができる生徒たちだと感じています。

しかし、思春期である中学生にとっては自分本位になってしまう時もあります。時に気持ちがささくれ立ってしまい、自暴自棄になったり、家族や友達を傷つけてしまったりすることがあります。そして結果的にクラスや学校の雰囲気が悪くなることもあります。二中ではこれまでと同様に、学校生活において生徒全員が心地よく過ごすためにはどうしたらよいかを考え、クラスや学校の友達に対して、優しさやいたわりの気持ちを持って接することが大切であることを伝え続けています。具体的には、生徒たちには、「陰口、悪口はその人の人権を傷つけている」、そしてその行いは「周りにいる人に対しても不快な思いをさせている」、そして、学校生活では「誰もが居心地のよい学級・学校をめざさなければならない」ことをこれまでも伝えてきました。客観的に自分の言動を見つめ行動し、周りにもよい影響を与えることができる人になってほしいと思っています。

また、さらに「三方よし」の精神を学校の外まで広げてみると、二中の教育活動は、保護者さんや地域の方々からの多大な支援で支えられています。「家族や地域の方々に感謝の気持ちを持つことの大切さ」も、ことあるごとに担任や部活動顧問から話をしてもらっています。中学生として充実した活動ができる幸せを感じ、恩恵をいただいていることに感謝しながら、自分たちの日々の生活を充実したものにしていくことは、自分も周りも温かい気持ちになります。「三方よし」で皆が幸せになります。

生徒たちが将来の日本や世界の明るい未来を創る担い手となれるよう、生徒たち自身がしっかりとした人権感覚と豊かな人間性を磨き、周りの人を大切にする経験が積めるよう、私たち指導する教職員も努力してまいります。どうか保護者・地域の皆さま、これまでと同様に二中の教育活動を支えていただきますようお願いいたします。

